

2020年度事業報告

【1】新型コロナ感染症の大きな影響の中で

障害があっても街に出よう、多くの人と交流し、差別をなくしていこう、これが私たちの活動の原点です。コロナへの感染予防対策として言われていることは、私たちの思いとは真逆のものです。私たちの思い、積み重ねを否定するように感じます。

そして、感染した方への誹謗・中傷・差別は、障害のある人に向けられてきた差別と重なります。コロナの感染が異質のものを排除する考えを助長していないでしょうか。もはやだれが感染してもおかしくない状況。それにも関わらず、感染した人・感染者を出した団体が社会に謝るような状況は間違っていると思います。

感染防止は意識しながら、これからも私たちの思いを大切に障害のあるメンバーと共に歩んでいきたいと思っています。

コロナの感染が拡大するなかで思ったことは、対応はするけれど、できるだけ日常のコップのペースは崩したくないということでした。思えば東日本大震災の時、1か月ほどたってやっとみんな揃ってコップを再開できた時の喜びがあります。日常を取り戻すことの大切さ、逆に言えば日常を失うことの大変さ、そんなことを思うと出来るだけいつも通りでいようと思ったのです。

もともと食品を作っているわけですから、作業に入る前は自己申告ながらも体調をチェックし、しっかり手を洗って、作業中はマスクを着用しています。

心配なのは休憩中。狭いから密になりやすいし、おしゃべりが好きな人はおしゃべりするし。なるべく離れて食べるようにとは言っていますが、みんなとごちゃごちゃしているのが楽しい。そこのところは少し心配です。

コップは普段送迎をしていないのですが、公共交通機関を利用している人に対し、出来る範囲で送迎も一時期行いました。でも20年電車で通っている人からは、しばらくして「電車」って一言。送迎より電車で来たいという意思表示をされてしまいました。感染の危険性ということはあるのだけれど、この間積み重ねてきたものはやっぱり大事だよなど、改めて感じさせられた出来事でした。

売り上げは上半期では2~3割減りました。障害メンバーの工賃は3割減で支給せざるを得なくなりました。年末にかけて売り上げは挽回し、年間では1割減でおさまりました。売上の減少には多くの出店イベント等がなくなったことが大きく響いています。秋にかけてはイベントシーズンでかき入れ時ですが、2020年度はほぼありませんでした。

なんとかしなくてはと、他の事業所と合同で「福の市」と銘打って販売会を行いました。空きスペースを借りたり、自分たちの事業所の敷地内で開催しています。コップは、隔週ぐらいのペースで土曜日もコップの駐車場にテントを張り、野菜等を福祉事業所から仕入れて「福の市」を開催しました。集客力は決して高くはありませんが、平日だと来れないのよ、といったお客さんもいらして、参加しているメンバーも楽しそうに販売しています。10月以降も月1ペースで開催しました。7月にはるーぷさんの駐車場で夏まつりと銘打って行いました。

福の市は他にも東口前（酒の櫻井商店さん前のスペース）、錦町まるふく商店前、市民広場にも行いました。他の事業所を含めた福の市全体での売り上げは、年間で400万を超

しました。

以前から課題にしていたネット販売もできるようにしました。BASEというページを使用しています。2020年の11月末からはじめ、3月末までで10万ほどの売上がありました。

ハチ食品さんから委託生産しているショコラクッキー（旧名称「ハチコロ」）も定期的にご注文を頂いています。

他にもWATALISさんからも定期的に注文をいただいています。

中々元のように売上げが戻るとは思えませんが、やれるところで努力したいと思えます。

コロナの影響は売上げだけには限りません。ソレイユでは濃厚接触者に認定された人が出て、事業所を休所しました。もはや感染を防ぐというより、感染者・濃厚接触者が出るとうことを前提に活動をしていく必要があります。

*市民による市民のための緊急支援「コロナ市民連帯プロジェクト@みやぎ」様より支援金を頂きました。障害福祉事業所の販売支援のために活用しました。ありがとうございました。

*難民を助ける会様より(イオン1%Club助成金を活用)、レンジフード改修工事費用の助成を頂きました。ありがとうございました。

*仙台建設業協会より5万（毎年いただいています）

【2】理事会

計9回行いました。収支状況・販売・行事予定・会員の状況・ショップについて、麦の穂の発行といった議題等ついて話し合いました。コッペでは、みんなで運営を考えていこうというスタンスでやってきました。理事会には都合がつく限りみんなに参加してもらいたいと思います。

【3】会員（2021年3/31現在）

正会員22名、賛助会員・寄付者126名（重複者除く）（昨年度より3名増）

2018年2月1日を持って認定NPO法人として認められました。「認定」になったことを強みに会員・寄付者の増加を試みてきました。ホームページ上に寄付欄を設けることも検討しましたが、経費の面から実現していません。

認定NPO法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。安定して認定の条件をクリアするためにはさらに寄付者・賛助会員の増加が必要です。情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大に図りたいところです。ご協力を引き続きお願いします。

なお、認定の有効期間は2023年1月31日まで。更新申請は、2022年の総会が終わってから行うことになります。

【4】社会教育の推進

会報「麦の穂」の発行 計4回 それぞれ250部前後

2020年 6月 9月 12月 2021年3月

今年度は予定通り4回発行できました。内容も充実していたと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。随時

原稿を募集します。

② ボランティアの受け入れ

区役所販売・DNP販売等には、ボランティアの方にお世話になっています。

今年度、長年ショップボランティアをやって下さったSさんが年齢もあり卒業されました。ありがとうございました。

例年受け入れている「高校生の夏ボラ体験」や中学生の職場体験は、コロナの関係でありませんでした。

【5】就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、261日／年、利用者延べ数は、3,829人（昨年257日／年、利用者延べ数は、3,630人）となっています。コッペの定員としては、20名。当初在籍は19名、12月より20名となりました。一日当たりの平均利用者数は、14.7人（昨年14.2人）となります。延べ数、平均数とも昨年を上回っています。処遇改善加算を含めその分給付費収入も増加しました。

それを支えるスタッフは、常勤5名、パート3名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティア方々等に、協力して頂きました。多くのメンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にもこれまで行っていなかったメンバーも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約2,165万／年（仕入れ販売分250万含む）、月平均180万となっています。2019年度の売り上げからは約200万下がりました。先の述べたようにコロナの影響が大です。

消費税が10%に上がった分、仕入れ経費も上がっています。

③ 訓練等給付費収入

2020年度は3,062万ほどとなりました。前年度より約240万上がりました。2020年4月より新しく1名増えたことと処遇改善加算の増額されたことによるものです。

④ 工賃

障害メンバーの給料は、売り上げの減少で3割減で支給しました。そのため平均工賃は36,113円となり、2019年度の、平均約51,124円より大きく減少しました。

コッペの目的とする共に働くことの具体的な現われが工賃の金額です。その目標が達成できないのでは、コッペをやっていくこと自体の意味がありません。そのためにも売り上げの増加が必要です。

しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、見通しは明るくないのが現状です。

⑤ 収支状況

収支としては、約400万の黒字となりました。その中には持続化給付金等のコロナ関連の助成金も入っています。2019年が赤字だったことを考えるとまだまだ予断はできません。

⑥ レクレーション・研修

- ・レクレーションで秋保にある「HACHI」さんでランチをしてきました。
- ・いちえさん食事会招待 6月28日(日)・2020年1月20日(日)
- ・ストライキングエクササイズ 2020年1月20日(日)

【6】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もともになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

引き続き情報交換をしながら連携していきたいと思います。

【7】NPO法人共同連並びに東北ブロックについて

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。ZOOMでの会議の他は、東北ブロックの活動も含め、十分な活動はできませんでした。それでも東日本大震災から10年に合わせて1月に現地見学会を企画しました。当初参加予定人数よりずっと少ない参加者でしたが、石巻・女川の事業所を訪ねることもでき有意義であったと思います。